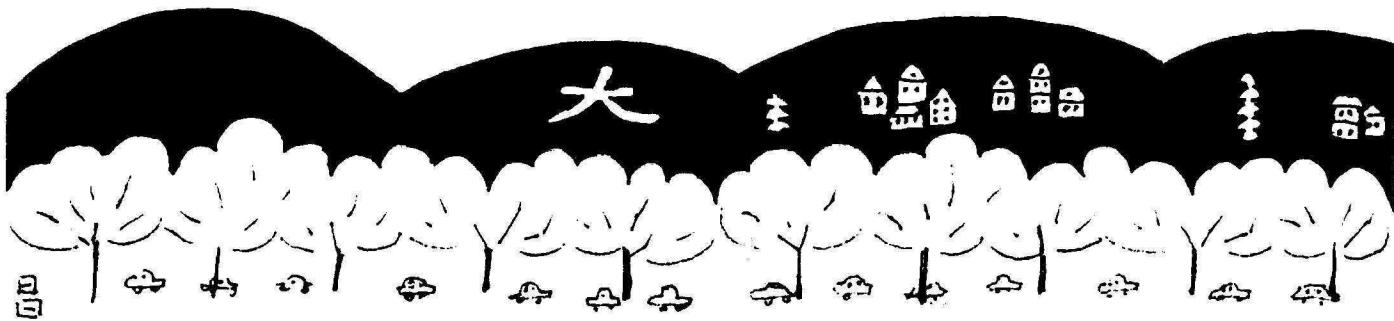


鴨沂高校同窓会報

NO. 1 OCT. 1994 京都府立鴨沂高等学校同窓会 京都市上京区荒神口通り寺町東入る鴨沂会館気付



本校の近況

京都府立鴨沂高等学校長 小谷嘉明

同窓生の皆様には、各界で益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、昭和23年学制の改革で京都府立京都第一高等女学校を前身として本校が発足いたしましたが、現在も脈々と発足当時の素晴らしい校風を継承し、日々の教育活動を展開しております。

教育制度も国際化・情報化の進展につれ変わってまいりました。本校も一年生から新学習指導要領に基づき、自主的、実践的な活動を通して人間的資質や社会的な能力を育て、学校生活および将来の社会生活において、望ましい自己実現を図ることのできる判断力や態度を培っております。

部活動におきましては、フェンシング、自転車、水球で京都府を代表する生徒も育ち、また、進学におきましても、市内総合選抜地域で普通科生徒の進学率がトップグループに入るなど頑張っております。

こうした中で、紫野グランドに新しく体育振興施設を設けるなど、施設の充実に努めております。

同窓生の皆様、母校のさらなる発展を期したく、今後とも格段のご支援、ご協力をいただきますよう宜しくお願ひいたします。

どうする吾らの高校同窓会？ 会長（代行）秋田宗平 1期

同窓生の皆さん、お元気ですか。昭和23年（1948）10月に発足した母校は四年後の平成10年（1998）に、同窓会はその翌年に、創立五十周年を迎えます。来年、五年振りに総合名簿が出ますが、卒業生の総数は最初の約400名から現在では約23,000名となりました。同窓会は、年度を越えて出来るだけ多くの卒業生のご意見やご希望を反映しながら運営する必要があり、例えば、卒業生数に対応したより適切な方法が求められます。総会も久しく開かれていませんが、有志の方のご協力もあり、昨年9月、約80名の各期にわたる同窓生にお集まり頂き、同窓会のあり方について相談会①を開きました。これを受けて生まれた準備委員会②では現在進行中の名簿編集作業の機会を捕らえ、出来るだけ多くの同窓生に連絡して「母校に集まる会」（仮称）を下記予告の通り、来年の秋に持つことを計画しました。今からご予定にお入れ下さい、多数母校にご参集下さいようお願い申し上げます。その実現への第一歩として作られたこの概を、皆様方にお届けいたします。

- 出席者数把握の都合上、お手数乍ら出席可能と思われる方はご一報願います。
- 会報や同窓会についての意見、感想を今年中にお聞かせ下さい。

葉書か封書で。〒602 上京区荒神口通り寺町東入鴨沂会館気付鴨沂高校同窓会宛

予告 1995年10月29日(日) 予定 同窓会

①1993年9月鴨沂高校同窓会相談会出席者

1期秋田宗平	6期山本盛一	10期中井靖太郎	14期解良新一
石橋道弘	佐竹修	渡辺栄子	種田ヒサ子
久保田文雄	寺西諄信	柳田穎	中込由伎子
津田ゆかり	森家要	川久保尚子	川崎猛
永友育雄	猪熊兼勝	小島正道	木村正
安田朝子	竹内康之	竹内康之	近藤義彦
北丸幸子	西川米子	沢佳子	谷口明日香
林潤	福島玄	塩田路淳子	秋田正子
荒木不二洋	小西実	藤田貞子	国枝治一郎
稻田昌子	島崎章	片岡良子	高橋利明
中島和子	仙石晋	荒木功	畠翠
速水醇一	林正光	秋山哲夫	木戸直治
植田喜佐子	前島幹雄	盛川富美子	小西敏治
上村淳之	佐々木憲子	金井信孝子	井口悟
福田健	大西良子	河窪圭弘	川本修平
山本達哉	川尻肇	桑田真弘	山崎賢二
杉本寛一	安藤一枝	園井弘一	中川雅子
岡田光子	西尾斎	平沢裕	神宮和之
平岡良之	三村晴子	河合勝彌	44

まちがいがありましたら、おゆるしください。

②準備委員会

●おたずね・・・

代行	1.秋田宗平	鴨沂新聞部からの依頼：
補佐	8.福島玄	次に記す新聞をお持ちの方はお知らせ下さい。
会計	14.木村正	25年8, 9号、28年25号
企画	10.西尾斎	34年64号、39年83, 85,
企画	11.柳田稔	86, 88号、45年109,
広報	1.永友育雄	110号です。柳田まで。
広報	1.安田朝子	TEL.075-711-5715
庶務	3.仲谷喬	
庶務	12.藤田貞子	
会報	3.稻田昌子	

会計報告 担当 木村 正

鴨沂高校同窓会の保有資産は、平成6年
6月30日現在で、下記のとおりです。
定額貯金(9口) 13, 523, 862円
通常貯金(1口) 200, 998円

合 計 13, 724, 860円

恩師のご様子

私の感懷

田代善信

明年2月で満80才、3月は金婚式。思えば永く生きたものだが、一炊の夢の感も強い。その時その場では、全力を出して、理想に向って努力した積りでも、何故か偽り。

唯今、中国語、朝鮮語の学習と、昔、学習したまゝのドイツ語の思い出し学習をしている。朝鮮史の卒業論文を書いたが、皇民化政策で、朝鮮人から朝鮮語を奪った余波で、その学習ができなかった。やつと75才で始めたが頭は石頭、目的を失った外国語学習は困難。

日暮れて・・・

上村栄一

教職を退いて15年、教育多様化の旗印のもと、受験競争による教育の歪みは益々拡大、打開の方向を求めて研究者、現役の先生、父母の方々と模索を続けています。他方、年金者組合、教職員退職互助部、老人会などそれぞれ地域の世話役を命ぜられ、又満百才になった老母の看護など、悠々自適とはほど遠い日々を送っています。

ただ健康で一日一日を頑張ってやれることだけが、唯一の取柄でもあり幸せと思っています。

思うがまゝに

西川覚朗

鴨沂に1期から23年間居ましたから、44期と聞くと、早やそんなになるかと驚きます。比叡を見上げ、琵琶湖を見下す里にて、極く自然のまゝに日を送っています。

昔を思い出して懐しみ、又今日の社会の激動に戸惑い乍ら、生活していると言うところです。身近かで、人生問題とか心の問題とかで人と触れる機会は多いですが、余り読書とか趣味とか運動とかいうよりも、自然な形で人と裸で接するという事の方が多い。むしろ専らドライブ旅という処。

金婚

河田秀夫

歩幅にあわせ	妻の体を	おぼつかなき	世界地図買	ヨーロッパの	四十余年	戦後のくらしを	たすけたる	蔵書を売り	すき焼とせし	杳き日を	憶いつつむかうる	結婚記念日	妻と旅立つ	花冷えの朝	むかえし年を	ひさびさに	金婚を
病廊をゆく	ささえつつ	しばし見送る	祈りつつ	ヨーロッパの		ヨーロッパの	たすけたる	たすけたる	たすけたる	たすけたる	たすけたる						

思いがけなく、ジュリーこと、沢田研二さんと仕事をする機会があった。私が手伝っている「ひょうご舞台芸術」という企画のなかで、チェホフの『かもめ』に出演してもらったのである。この同窓のスターは、稽古場ではじつに控えめに紳士的で、舞台では殻を破ってユーモラスな魅力を見てくれた。

配役が決まったときに頭をよぎったのは、昔、鴨沂には熱病時代があったなという感慨であった。それはほぼ私の在学中に始まり、沢田さんの卒業とともに終わった時代であった。私の同級生たちはマルクスと坂口安吾を読みあさり、校長さんの襟を掴む闘士もいれば、自由の確認のために自殺を試みる実存主義者もいた。沢田さんは髪を赤く染めてロックバンドに熱中し、歴史的なタイガースを結成して世の中に出た。その間、鴨沂はまた山本富士子さんや田宮二郎さんといった、銀幕の大スターによっても知られていた。

そういう時代が遠く去って、私は初めて沢田さんに会ったわけだが、近くで話して見ると、強い共感を覚えたのは、意外にもこの人の都会的なシャイネスであった。明かにこの人はいつも醒めていて、ジュリーという役柄を演じているのが感じられたのだが、その瞬間、ひょっとするとこれが鴨沂らしい気風ではないのか、という思いが私を襲った。そう思って振返ると、あの熱病時代、私も多くの同級生も、やはり微妙に熱病患者を演じていたような気がしてきたのである。

期

鴨沂レターズ

到着順



平岡良之

六期卒業生は六百数十人十三クラス 昭和五十一年六月有志数人で発足し 每年六月第一土曜日会合開催を決め 名称水無月会とす 毎年会員増加し 今年（於京都国際ホテル）で十九回 総数二百六十五名 東京水無月会も毎年九月に実施 益々活況を呈す（於帝国ホテル）内容・恩師招待 ダンス指導講演 旅行 情報交換 先輩還暦記念あゆみ拝聞出版検討中。



川崎 猛

昭和57年220名で卒後20周年同期会開催（堀川会館・委員長 川崎猛）、同62年（京都ロイヤルホテル・同奥村一孜）、平成4年（新都ホテル・同平岡建樹）、そして平成7年7月8日に第4回目を予定（同石田須巳子）。毎年旅行会、ゴルフコンペ、グルメ会あり。関東地区は鴨葱会。異常なほど仲が良いと言われる同期生達です。



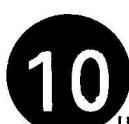
谷口明日香

卒業20周年記念として、1983年9月に初めての同期会を京大会館で開催。第2回（1988年）は、白沙村莊。第3回（1993年）は、ホテルサンフラワーと5年毎に開いている。毎回出席者は150名前後。同時に名簿も発行している。東京支部は鴨沂会に入り活発に活動中。次回の同期会は1998年に開催予定。転居等で住所変更時は事務局まで連絡下さい。



寺西諄信

1981年に「七鴨会」発足。第1回同窓会を京都ホテルにて開催。以後、第2回・84年ロイヤルホテル、第3回・87年京都ホテル、第4回・90年パークホテル、第5回・93年全日空ホテルと続いております。次回第6回は、7期生揃って還暦の歳を迎える96年に予定されております。他に、「東京七鴨会」も盛んです。



川尻 肇

浩一の初盆だった。運動神経の良い、頭の素晴らしいやつだった。昨年クラス会で一緒になって、元気に笑って別れて。亡くなってしまうと、想い出がいろいろと湧き昇る。私たちの学年会は、三年毎に開かれ、来年京都ホテルで開催の予定。十年前に同窓会で出会った辻村、昨年の同窓会で顔が見えなかった。京大医学部を卒業した医博、私の胃を保障してくれた先生だのに。先に亡くなってしまった。私たちは同窓会のクラブテニス、ゴルフ等に出会いの場をもち楽しんでいる。



山本達也 福田 健

昭和57年5月23日京都ホテルにて卒業後30年ぶりに、恩師16名、同期生220名の参加で開催。会の名称“リメンバーOHK I. 27”と5年毎に開催する事を決定された。昭和62年5月24日京都ホテルで第二回を開催、恩師11名、同期生210名参加、第三回は平成4年5月17日京都グランドホテルで恩師9名、同期生175名で開催。5組は水無月会と称し、年1回クラス会を続けている。最近は近場の一泊旅行が多く、常に15名前後が集る。テニスやパットゴルフ、カラオケに興じ、老後と健康に関する話題が多い。



速水醇一

戦後民主主義の理想を求めつつ、手探りで始まった新制高校教育を初めて3年間通して享受した我々は、高年者と呼ばれるには若干の年月を余して、現役の能力を發揮し続けていると自負している。自己的アイデンティティの基礎となった高校教育を振り返る文集が作られ、再会の場としての3期会も盛会で、戦後史の語り部の経験を更に磨こうとしている。

■編集後記 恩師、卒業生のご協力で、鴨沂ならではのものができます、感謝しております。

（表紙絵・編集・レイアウト 稲田昌子）



中国の茶

カルチャー・ランド

布目潮渕

茶は英語で Tea というのは、中国の茶の字の発音に由来する。茶は中国文化が世界に伝播したものの一つである。

中国における飲茶の起源については諸説あるが、唐代618—907年に至って、一般にまで普及した。その唐代の中ごろ、陸羽によって『茶經』が著作され、そこには、茶の植物的説明に初まり、製茶法、茶器、茶の煮たて方、飲み方などが書かれている。その製茶法は現在世界で主流となっている葉茶ではなく、餅茶とよばれる固形茶の製法である。その製法は、茶採みした葉を蒸し、臼に入れてつき、小さな型に入れ、乾燥し、錐で穴をあけ、さしに通して保存し、飲む直前に炙って、碾（薬研）にかけて粉末にし、その茶の粉末を湯の沸騰する釜の中へ入れ、沸騰によって点て、盃にくみわけて飲む。

1987年、西安（唐の首都長安）の西にある法門寺の地下室から、唐末の皇帝が寄進した銀器などが多く発見され、その中に銀製金メッキの「茶碾子」と刻文のある碾があった。またガラス製の茶托つき茶盃もあり、それらは京都文化博物館で開催の大唐長安展に出展されている。法門寺出土の茶器によって、唐代の宮廷でも、茶經に書かれているのと同じ餅茶が行われていることが判明した。

茶經の茶器は銅・鉄・木・陶器など質素であったのに対して、宮廷では銀製・ガラス製の豪華な茶器が使用され、すでに茶經のわび茶と宮廷の黄金の茶の対立を思わせる。（元鴨沂高校教諭・大阪大学名誉教授）

象牙の塔より

3期 荒木 不二洋

約百年の歴史をもつ国際數学者会議が、今夏チューリッヒで開催され出席した。前回は4年前、京都で開催され、私の数理解析研究所の森重文教授がフィールズ賞を受賞した。今回の受賞者は、フランス人2名、ベルギー人1名（フランスの研究所にいたのでフランス人が2人半という人もいる。既に米国へ流出）、ロシア人1名であった。今回の特徴は衆目の一致する候補者がなく、全然受賞者の前評判がたたなかつたことである。（新聞で大きく報道されたフェルマー問題の解決は、その後、証明のギャップが見つかった）。

京都の場合は、受賞者の前評判が流れて、公表は会議初日というルールを守るための記者対策に四苦八苦した。私がフィールズ賞受賞者選考委員会委員を務めた1982年受賞者の場合には、まだ選考委員会の選考が始まる前から（すなわち2年以上前から）、私の学生が私に（選考委員名は受賞者発表時まで極秘なので、もちろん私が選考委員であることを知らずに）「先生、これこれが人がフィールズ賞を受賞するという噂がありますが本当でしょうか」と問うていたが、その名は（大勢の候補について議論があつたものの）最終的に受賞者として決定した人であった。

今回は、そのような決定打を放った人がいなかつたわけで、したがつて授賞結果について多くの批判を聞いた。

8月の平均気温が23度というチューリッヒでは、ホテル等に冷房がなく、35度を超す今年の猛暑は、暑かった。

ペルーにて

3期 石塚 彩子

三十余年住みなれていた高原都市ワンカイヨを離れ、首都のリマに移り住んで、はや六年もたつてしまつた。

ワンカイヨは山岳地域で標高三千三百メートル、四月から九月までは乾季で雨は降らないが、十月からは雨季で、あたりは緑に覆われる。空気は希薄だが乾燥していて美しい。澄みきった青空の下で、民族衣装をまとつた村人達が踊りながら村中をねり歩く伝統的な村祭りは、ハープや竹の笛「ケナ」等で奏でられる民族音楽の音と共に、いつも郷愁をそそられる。

ここリマは、海岸地域で六月から八月末までの冬にはいつもどんよりと曇っている。見なれていた美しい星空は、ここでは見られないけれど、その代り車で十五分も出かけると、海岸の魚市で新しい魚を手に入れる事が出来る。お腹に吸盤のついたペヘサポ、大きなひらめ、黒鯛、貝類、どれもとてもおいしい。魚の切り身を玉葱と一緒にレモン汁にしばらく漬けて置いて食べる料理は、日本からのお客様にも人気がある。果物も種類が多く、どれも自然の味がするのがいい。

住宅街が鮮やかなブーゲンビリアで彩られ、ジャスミンの花の香りの漂つてくる夏の方がリマは美しい。